

大学薬用植物園は絶滅危惧種か

～次世代の大学薬用植物園の在り方を考える～

主催：京都薬科大学薬用植物園

共催：日本生薬学会

参加申込
不要*
・
参加無料

日程

2025年9月13日(土)

時間

18:00～19:00

会場

崇城大学薬学部キャンパス

Q号館 3階 361講義室 (〒860-0082 熊本市西区池田4-22-1)

*日本生薬学会第71回年会(14-15日)、日本生薬学会理事会・日本生薬学会臨時代議員総会・生薬学天然物化学教科担当学会議・日本植物園協会第四分野会議(13日)に参加される方以外で参加を希望される方は、事前に下記問い合わせ先までご連絡ください。

講演
1

戸部 博

(京都府立植物園 園長)

変わる大学薬用植物園：16世紀以降にヨーロッパで
開園した数々の大学薬用植物園の現在からみえること

講演
2

野崎香樹

(武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園 園長)

武田薬品 京都薬用植物園の歩みとこれから

御挨拶

2025年、京都薬科大学薬用植物園は、開設100周年を迎えました。平素より多くの関係者の皆様にご支援賜り、心より御礼申し上げます。

大学薬用植物園の100年後の未来を考えると、存続および発展のためには現状の課題と真摯に向き合い、明確なビジョンを構築することの必要性を強く感じております。「大学薬用植物園」として、独自性ある教育および研究の展開が求められるなか、同様の課題意識や危機感をお持ちの関係者の方もいらっしゃるかと存じます。そこで、課題を共有し、今後の大学薬用植物園の在り方について意見交換できる機会を設けたく、シンポジウムの開催を企画致しました。

是非、ご参集ください。

2025年8月吉日
京都薬科大学薬用植物園 園長 中村誠宏

